

平成30年度予算見積調書(2月補正予算)

課室名: 高校教育指導課

担当名: 学びの改革担当

内線: 6767

(単位: 千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
B24	未来を拓く「学び」プロジェクト			一般会計	教育費	教育総務費	教育連絡調整費	指導内容充実費	
事業期間	平成27年度～平成31年度	根拠法令	地方教育行政の組織及び運営に関する法律			宣言項目	06	次代を担う人財育成	
					分野施策	030620	確かな学力と自立する力の育成		
1 事業の概要 協調学習による授業実践を通して、教科・学校の枠を超えた教員のネットワークを充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた継続的な授業改善を推進する。これに加え、協調学習の授業実践における生徒の変容を調査・分析し、授業の質の向上を図る。 (1) 協調学習による授業改善 予算の節減等による減 $\Delta 499$ 千円 (2) 協調学習の効果検証 入札等により見込みを下回ったことによる減 $\Delta 4,414$ 千円				5 事業説明 (1) 事業内容 ア 協調学習による授業改善(研究協議会、公開授業) 5,390千円 イ 協調学習の効果検証 6,400千円 (2) 事業計画 ア 時代に応え未来を拓く人材を育成するため、協調学習の取組をさらに発展させ、教科・学校の枠を超えた教員ネットワークを構築し、質の高い授業教材を共同開発する。また、次代を担う若手教員や協調学習による授業づくりの核となる教員の育成など、教員の層を盤石なものにし、このような取組を埼玉モデルとしていく。 イ 協調学習による学びが生徒の学力をどのように伸ばすのか調査・分析を行い、授業の質の向上を図る。 (3) 事業効果 ア 生徒の学力の向上 主体的、対話的な学び方を通して、課題解決能力・コミュニケーション能力などを向上できる。 イ 教員の授業力の向上 生徒の「学び」の多様性を理解し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための質の高い授業実践ができる教員を育成できる。 ウ 協調学習の効果検証 生徒の経年変化を見ることで、教育活動の中での有効な教育モデルを提示でき、他の学校にも活用ができ、県全体の教育活動力の向上につながる。 (4) 県民・民間活力、職員のマンパワー、他団体との連携状況 ア 東京大学等の研究機関や企業と連携し、学習科学の知見を採り入れた協調学習の研究成果を授業づくりに活用。 (5) 補正予算の概要 ア 協調学習による授業改善(研究協議会、公開授業) : 予算の節減等による減額。 イ 協調学習の効果検証 : 入札等により見込みを下回ったことによる減額。					
2 事業主体及び負担区分 (県10/10)									
3 地方財政措置の状況 なし									
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×1.6人=15,200千円									
				財 源 内 訳				一般財源	補正後の 予算額
予算額									
決定額	$\Delta 4,913$							$\Delta 4,913$	6,877
現計額	11,790							11,790	